

令和6年度 学校評価書【新庄北高等学校最上校】						学校関係者評価の評価基準 A:とても良く評価できる B:概ね評価できる C:やや評価できない D:まったく評価できない	
自己評価の基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった							
番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望	
1	教育方針 学校経営	◆ 本校の掲げる学びのスローガン「ともに学び、ともに伸びよう〜つながるひろがる 高めあう」や経営方針を具現化するため、生徒の個性と主体性を大切にした教育活動に教職員が積極的・協働的に取り組み、一定の成果を上げた。教職員が各教科で教材の精選・工夫に努め、丁寧にかかる授業を実践して基礎学力の定着を図っているが、上位層をさらに伸ばすための手立てが課題である。 ◆ 一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな指導を学校全体として継続することができた。生徒の個性が多様化し、必要な支援が多様化・複雑化しているため、個に応じた指導や支援について引き続き研修を深める。	B	◆ 各教科の授業と朝学習やリラーニングによる学び直しを関連づけて学習することや、教科横断的な学びにより、効果的な学びとなるよう工夫していく。さらに、分掌・学年・教科間の連携を密にして上位層の学力伸長も含めた更なる取り組みの向上を図る。また、生徒の自己有用感・自己肯定感を向上させる学校行事やボランティア活動での主体的な活動をさらに支援する。 ◆ 個に応じた指導や支援について、校内研修により能力向上を図り、さらに校外研修会へ積極的に参加し幅の広い支援方法について学び深めていく。また、外部機関との連携も更に密にしていく。	B	◆ 他校ではできない個に応じた指導、支援は正しく最上校の強みと言える。中学生の頃にうまく集団に適応できなかった生徒が最上校に進学して良かったという話を耳にする。先生方のご尽力に感謝する。 ◆ きめ細やかな指導が最上校の良さだと思っている。上位層の学力伸長に期待する。 ◆ 社会の荒波を自分で乗り越える力が必要であると考えてるので、「個を強くする」方針があってもよいと思う。	
2	学習指導	◆ シラバスを配付し、生徒が見通しをもって学習に取り組み、また、計画的な朝学習やリラーニングにより基礎学力の定着・向上が図られた。適切な生活リズムと学習習慣が確立できていない一部の生徒への指導が課題である。 ◆ UDの視点を取り入れた授業やTT授業の実践、ICT機器の活用等により手厚い指導を継続し、効果的な学習活動ができている。公開授業、校内授業研究週間や授業アンケートの実施により、授業力の向上と指導法の点検・改善を図った。 ◆ Google Classroomでの定期的な図書館通信の発行、朝読書活動、図書委員会企画等の活発な活動により、充実した読書教育を実践できた。	B	◆ 家庭学習習慣を確立し基礎学力を向上させるため、更に効果的な指導方法となるよう工夫改善していく。生徒の主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、探究型学習を意識した授業改善についてさらに研究する。 ◆ ICT機器を活用した学習指導の研究を継続し、より効果的な活用法と生成AIの活用法について校内研修等で情報共有する。 ◆ 生徒が関心を持ち、生徒のためになる図書選定や図書委員会活動の充実に一層努め、読書習慣の定着を支援する。また、図書委員が町の放課後児童クラブで行っている絵本の読み聞かせ活動を継続し、地域との連携を深めていく。	B	◆ ICT機器の普及、活用が進む中、読書離れが課題となっている。最上校では図書館通信の発行をはじめ、朝読書活動にも取り組んでおり成果が期待される。 ◆ 読書週間について、2、3年生の貸出冊数が伸びて、読書週間が定着することに期待している。 ◆ 家庭学習時間の目標は高すぎるのではないかと感じる。	
3	進路指導	◆ 外部講師による進路ガイダンスやインターンシップ、企業見学、キャリアカウンセリング等を実施し、キャリア教育の充実を図った。また、進路だよりの発行や進路保護者会の実施等により、生徒・保護者の評価は向上した。 ◆ 生徒の進路実現に向け、全職員が生徒個々の進路情報を共有して、面接指導、作文指導を行った。さらに、保護者による面接指導も実施し、学校とPTAが連携した進路指導が実現できている。また、特別な支援を要する生徒の就労についてハローワークとの連携を深めて指導できた。 ◆ 3年生は企業見学へ1社以上の参加を推奨し、進路目標達成に資することができた。1・2年生の進学希望者は早めにオープンキャンパスに参加し進路希望への具体性が高まった。一方で明確な進路目標が定まっていない3割程度の生徒に対し、早期からの目標意識の持たせ方の指導が課題である。	B	◆ 3年間を見通し、適時適切な進路指導を行うために、進路課が中心となって有益な進路情報の提供、企画を継続して実施する。地元と繋がりのある企業や外部講師への協力依頼も継続していく。 ◆ 「最上校版キャリアパスポート」などの進路対策ツールの充実を図るとともに、適切な進路選択のために、各種検査・外部模試等を活用していく。 ◆ 前年度卒業生の現状を把握して就業や学業への支援に努めるため、アンケート調査と企業・進学先との面談を継続していく。また、学校生活におけるアドバイスを進路だよりにまとめて後輩への啓発とする。	A	◆ 最上中学校との連携による「学校活動連携プロジェクト」は地域に根差した特色ある教育活動であり、学校間や中高生間の相互理解につながっていると思われる。「もがみ未来塾」における職業体験は、地元企業や事業所の献身的な協力に支えられており、キャリア形成の視点からも継続をお願いしたい。 ◆ 丁寧な進路指導を行っていると思われるが、学校評価アンケートの結果からは、教職員と保護者の間に差があるように感じられるので改善してもらいたい。 ◆ それぞれの学年でのインターンシップをもっと実施してはどうか。	
4	生徒指導	◆ 規律ある学校生活やルール・マナーを守って行動できるよう日常的な声がけや個人面談を行い指導した。最上寮生の様子を把握するため、各学年担任団が月1回の訪問を行い、管理人との情報共有を図った。 ◆ いじめや問題行動の未然防止に努めるため、各種講話の実施や定期的な校内巡回指導を行った。これにより特別指導を要する問題行動やいじめがなかった。 ◆ 学校行事や生徒会活動は活発であった。学校でのボランティア活動には積極的に取り組めているが、自発的なボランティア活動や地域行事にはそれほど参加できていない状況である。	B	◆ 学校生活に落ち着いて取り組めるよう、基本的生活習慣の確立を中心に据えて安心・安全な学校づくりを推進していく。 ◆ いじめ、問題行動の未然防止や早期発見のため、担任面談等をこまめに行い生徒の状況把握に努め、教職員間の情報共有を密にし、チームとして生徒指導にあたる。 ◆ 生徒数減少等も考慮した生徒会活動や学校行事の見直し、生徒の主体的な計画や運営など、学校行事等の充実に向けて一層工夫する。	A	◆ 思春期にある生徒においてトラブルは生じる。周囲の大人が手を出し過ぎることで、自分で解決できない生徒が増えている。最上校生にあっては様々な体験活動を通し、成功体験だけでない乗り越え体験を積まれることを期待する。 ◆ 生徒間のトラブルの事案に対して、速やかに対処していると思われる。 ◆ いじめがないことはすばらしい指導の成果だと思われる。	
5	保健指導 安全管理	◆ 多様な生徒に対して、SCやSSWの助言により支援について検討することができた。また、ケース会議を適宜実施し、学年と連携して生徒へ適切に対応することができた。定期的にSCとの面談を行い、生徒や保護者の困り感に向き合い対応することができた。特に1年生は、年度初めにSCとの面談を全員実施した。 ◆ 年間を通して感染症予防対策に取り組んだが、感染症の流行により学年閉鎖の措置を1回講じた。流行期に限らず常日頃から、保健委員会の活動とも合わせて適切に対応していく。 ◆ 様々な状況を想定した防災計画を作成し、外部機関と協力して防災訓練を実施することができた。	B	◆ 校内あすばら委員会とケース会議の充実を図るとともに、SCやSSWとの連携を強固にし、生徒のシグナルの早期発見、早期対応に努める。年度初めのSCと1年生の面談を継続して実施する。 ◆ 学年ごと多様な保健指導や個別指導を継続して実施し、健康で安全な学校生活を実現する。 ◆ 「さくら連絡網」による緊急連絡体制を生徒、保護者ともに周知徹底する。危機管理マニュアルの見直しを適宜図っていく。また、非常災害発生時に固定・携帯電話等の通話制限がかけられた状況を想定し、保護者と生徒間の安否確認訓練を実施する。	B	◆ 心肺蘇生法をはじめ、運動や栄養に関する研修を開催されており、これからの生き抜く力を養うものと推察する。一方で精検の受診率が低いように思われるので、100%達成を目指して働きかけの強化を願う。	
6	地域連携 その他	◆ ボランティア活動への参加が生徒の活躍機会となっており、社会性を育むとともに、地域貢献意欲の高揚を図ることができるものの、主体的活動が少ない。 ◆ 学校行事や各種活動における生き生きとした生徒たちの様子を地域住民の方々に伝えるため、ホームページの更新や最上校だよりの定期的な発行ができた。 ◆ 新庄北高本校との「キャンパス制」では、新事業や統合に向けて新庄南高校の生徒会役員を迎え有意義な交流活動も行えた。	B	◆ 生徒数減の影響で、同じ生徒が多くのボランティア活動や外部団体活動に参加している現状がある。生徒の過度な負担にならないように、参加する活動について関係諸団体と連絡を密にする必要がある。 ◆ 学校における生徒たちの様子を、充実した内容でこれまで以上に即時的に情報発信できるようにしていく。 ◆ キャンパス制における交流の際、一部の生徒だけでなく、全校生が交流できる企画を多く計画していく。	B	◆ 長い歴史のある「つくし会」の奉仕活動や交流等、町民の生きがいや活力への貢献度は大きなものがある。同様に「幸高ラジオ」の活動をはじめ、生徒会の主体的な取り組みは、求められるスクールミッションであり、豊かな人間性の育成と地域社会を支える人材育成にもつながっていると捉えている。 ◆ 生徒のボランティア活動の様子が、なかなか直に町民に伝わってこない。周知方法としてXやYouTubeの利用にチャレンジしてもよいのではないかな。 ◆ 最上校の生徒の活躍はとても嬉しく思っているが、様々な活動への取り組みが過度な負担とならないように、町としても心していく必要があると思われる。 ◆ アスパラ通信(最上校だより)を毎回楽しみにしている。	